

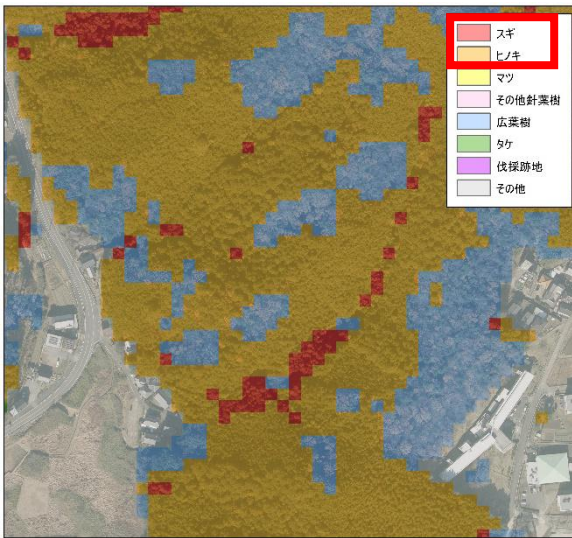


➤ 既存資料の整理

放置人工林の範囲を特定するために、既存資料の整理を行う。

■ スギ、ヒノキ範囲の作成

R1 森林資源解析成果（樹種区分図）より樹種がスギ・ヒノキの森林を抽出し、スギ・ヒノキ範囲を作成する。



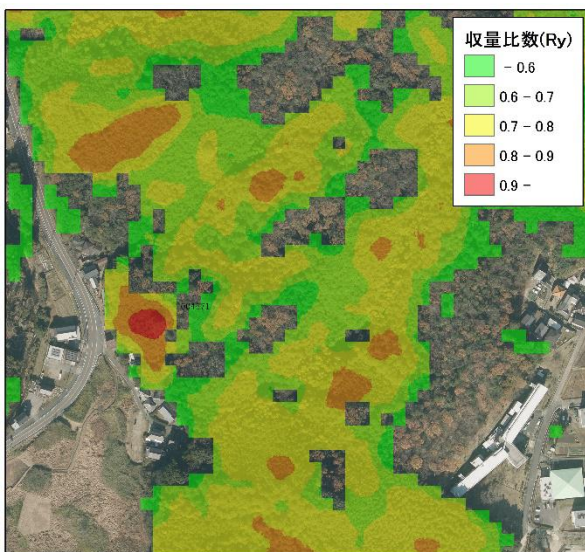
樹種区分図 (R1 森林資源解析成果)



① スギ・ヒノキ範囲

■ 収量比数(以降  $R_y$  とする)  $\geq 0.7$  範囲の作成

R1 森林資源解析成果（収量比数分布図）より  $R_y$  が 0.7 以上の森林を抽出し、 $R_y \geq 0.7$  範囲を作成する。



収量比数分布図 (R1 森林資源解析成果)



② 収量比数分布図 ( $R_y \geq 0.7$  以上範囲)



■ 森林経営計画：森林経営計画なし範囲の作成

作業手順は以下の通りとする。

手順(1)：森林経営計画認定簿より、認定済の林小班を抽出する。

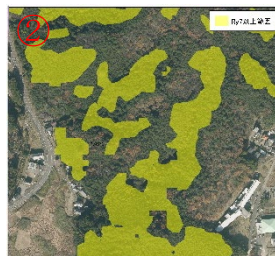
手順(2)：(1)で抽出した林小班に紐づく、森林経営計画図データを森林経営計画なし範囲とする。



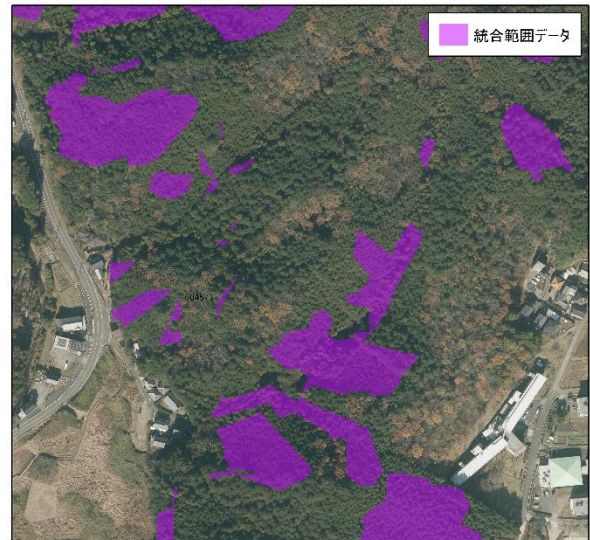
③ 森林経営計画なし範囲

■ 範囲データの統合

作成した①②③の範囲データを統合する。



条件ごとの範囲データ



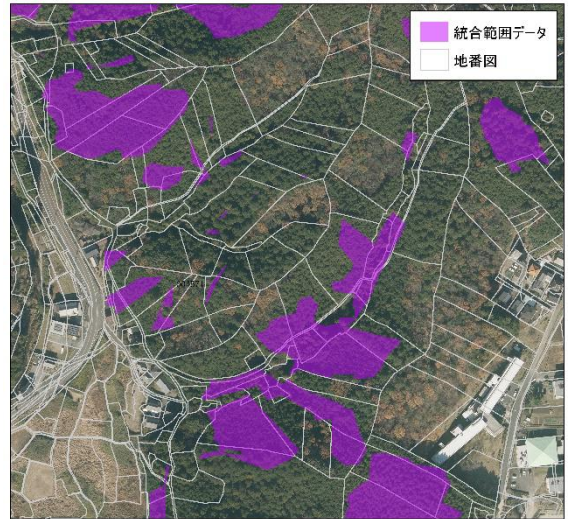
④ スギ、ヒノキかつ  $Ry \geq 0.7$  かつ森林経営計画なし範囲

■地番図との重ね合わせ

④スギ、ヒノキかつ  $Ry \geq 0.7$  森林経営計画なし範囲と地番図（資産税課）を重ね合わせ、対象地番を特定する。その際、微細な重なりによる過抽出を防ぐため地番面積に対して30%未満の重なりは除外する。



地番図(資産税課)



放置人工林位置データと地番図(資産税課)の重ね合

地番面積の **30%以上**が放置人工林範囲と重なる地番を放置人工林地番とする



放置人工林と定義する地番

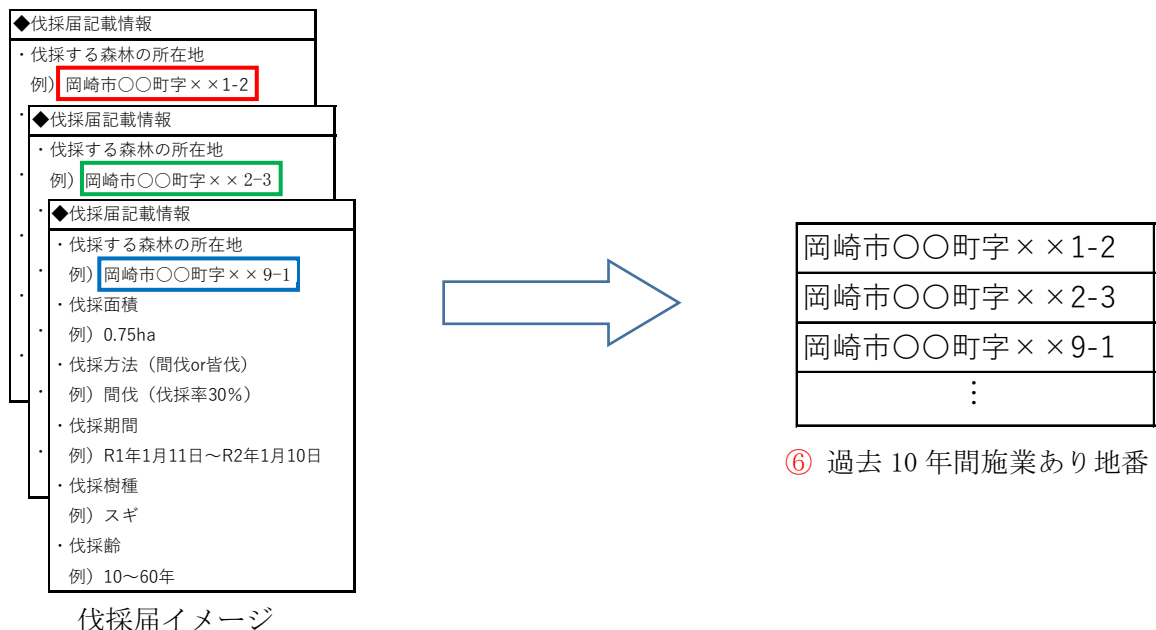
岡崎市〇〇町字××1
岡崎市〇〇町字××2-3
岡崎市〇〇町字××6
⋮

⑤スギ、ヒノキかつ  $Ry \geq 0.7$  かつ森林経営計画なし地番



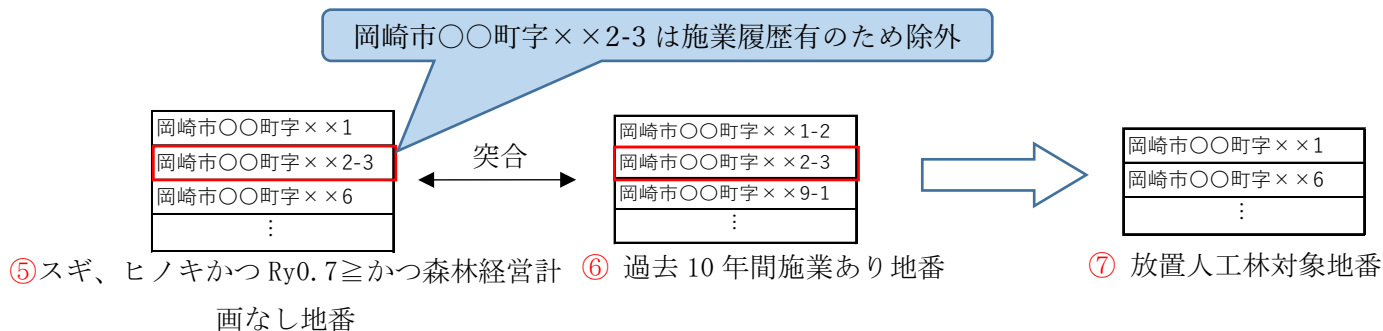
■ 施業履歴：過去 10 年間 (H24 年以降) 施業あり地番の抽出

過去 10 年分 (H24 年以降) の伐採届より、施業履歴がある森林の地番を抽出する。



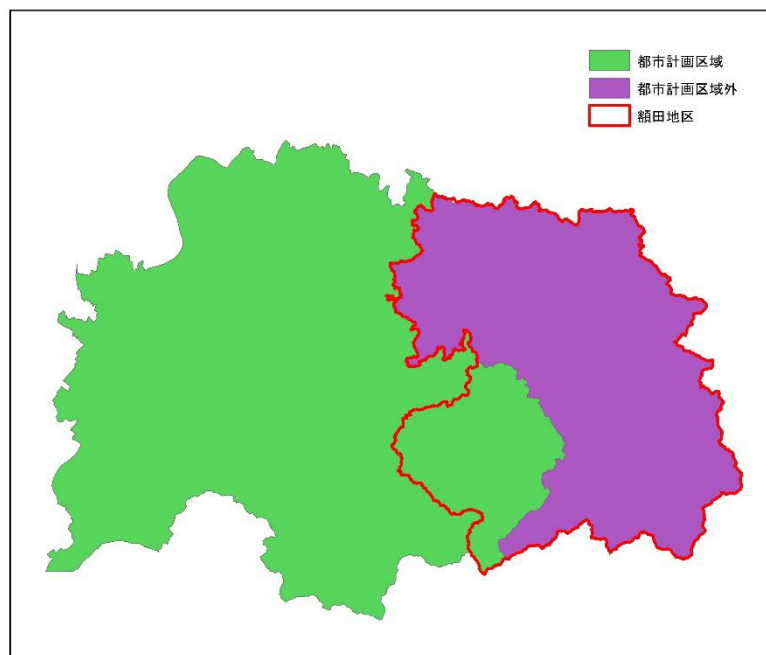
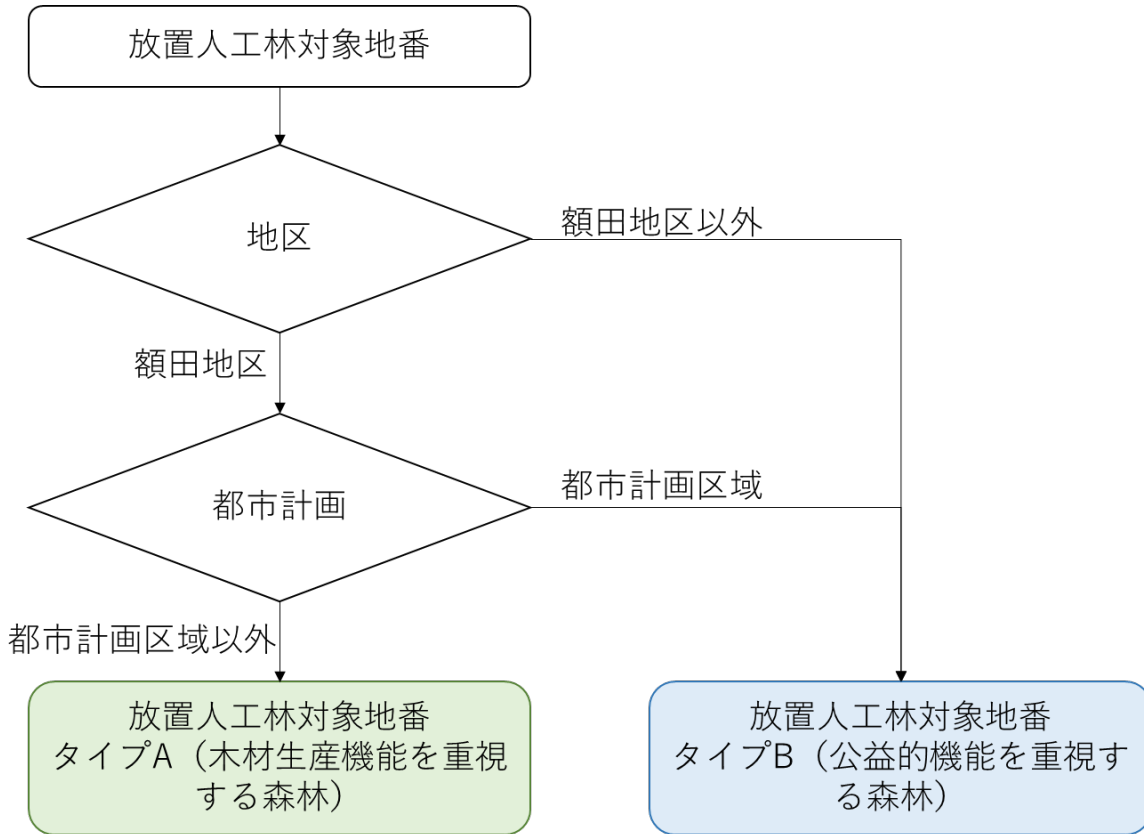
■ 施業履歴なし地番 (放置人工林地番) の特定

⑤スギ、ヒノキかつ  $Ry \geq 0.7$  かつ森林経営計画なし地番と⑥過去 10 年間施業あり地番を突合し、重複する地番を除外する。

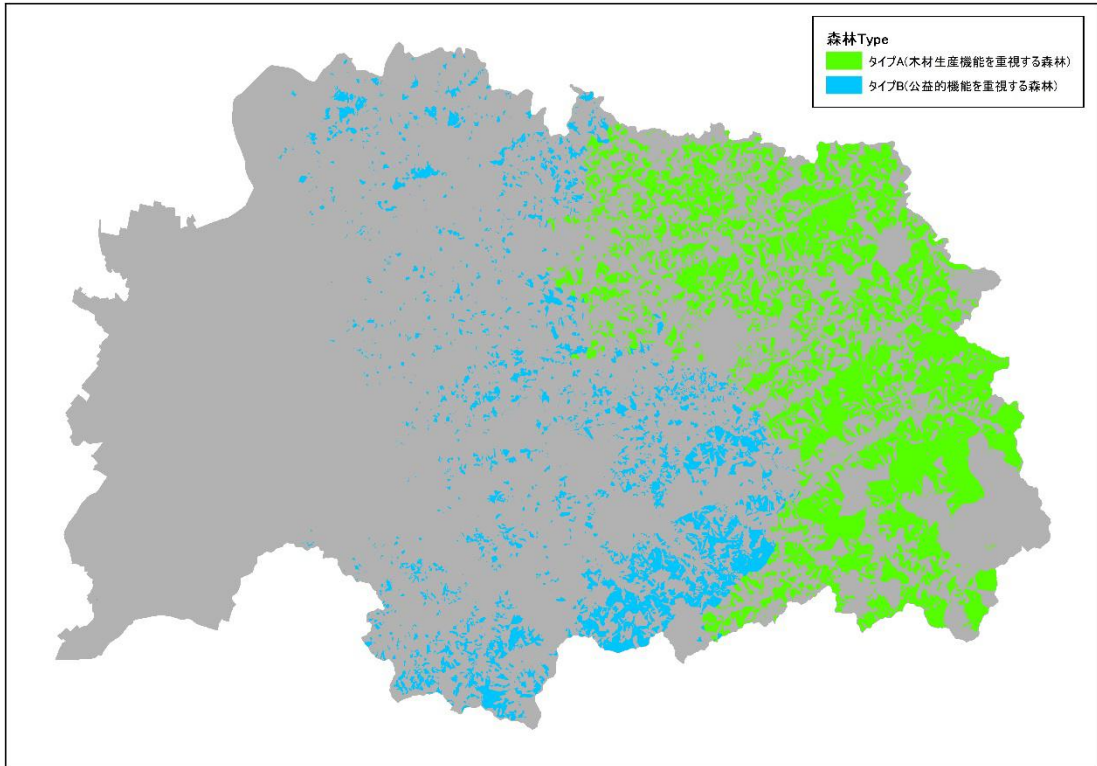


➤ タイプ A、B の森林の設定

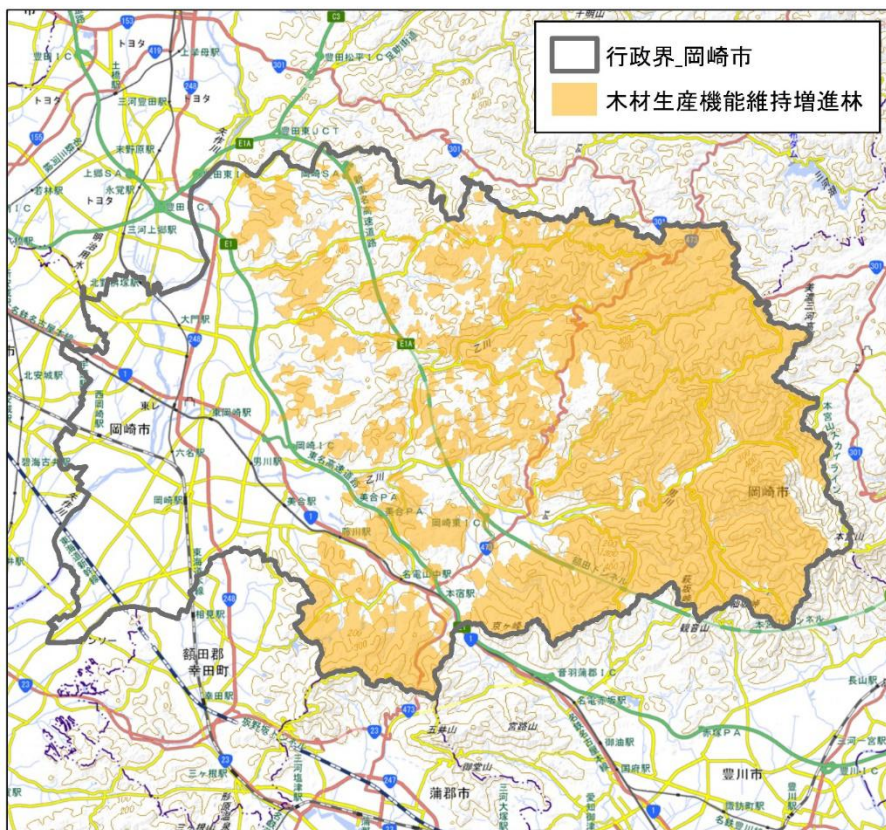
下記フローにより放置人工林をタイプ A(木材生産機能を重視する森林)、タイプ B の森林（公益的機能を重視する森林）に分類する。



タイプ A, B 条件図



森林タイプ別位置図



【参考資料】岡崎市森林整備計画 木材生産機能維